

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500224
法人名	医療法人 芳清会
事業所名	グループホーム さくらの丘
所在地	鹿児島県いちき串木野市生福8974番地 (電話) 0996-21-2777
自己評価作成日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(ユニット名 よっちゃん家)

- ・母体病院からの24時間医療連携体制、看護師訪問による健康管理
- ・母体病院からの管理栄養士による訪問、食事献立
- ・感染症予防のため、1日2回以上消毒
(手すり、扉等の手の触れる箇所等)
- ・衛生面にて、入浴は一人ひとり掃除、お湯入替
- ・空気清浄機、加湿器完備 (共有フロア)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは広いウッドデッキと中庭があり、天気の良い日はソーシャルディスタンスに留意しウッドデッキでお茶したり外気浴で気分転換を図っている。
- ・酸素療法を受けている利用者もおられ、毎日医療機関からの訪問看護師による健康観察がある。また、24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・コロナ禍で、ほとんど外出支援が困難であるが、全職員が一丸となり利用者が少しでも楽しめるよう、タンバリンや衣装を準備し、体を動かすレクリエーションを企画したり、手作りの神社でお賽銭も準備し初詣を行っている。
- ・一人ひとりの利用者と接する時間が多く、理念にある利用者の明るい笑顔を大切にケア実践している。
- ・全体会議を月1回開催し、職員の意見や提案を行い、課題は管理者などで話し合い、働きやすい職場を目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所、各ユニットに理念を掲げ、常に意識しながら日々実践に努めている。	理念はパンフレットやホーム便りに掲載している。事務所や各ユニットに掲示し、利用者と笑顔で接することを大事にしている。定期的に理念を振り返り、年度初めに理念に基づく実践ができているか再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流ができていない状態	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。地域の会合は自粛している。敷地内のウッドデッキや中庭での外気浴を支援している。地域から野菜等の差し入れがあり、交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	キャラバン・メイト研修受講登録、認知症サポーター養成講座参加、徘徊見守りSOSネットワーク参加にて支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月1回公民館長、民生委員、地域包括支援センター、各ユニット1名計2名家族代表に書面にて情報開示、現状状況を説明し議題にて意見等をもらっている。	定期的に開催はしているが、会議の中での話し合いの資料等は持参して説明をして意見を得ている。職員・入所者状況、コロナ感染状況、面会の状況等を報告している。身体拘束や虐待についてのアンケートと結果もまとめて報告し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から疑問、相談等、連絡をしアドバイスを受けている。	市担当者とは直接窓口に出向くことも多く、ホームの状況を伝え助言を得ている。地域包括支援センター職員とは入居者の件で相談・助言を貰う等、協力関係にある。感染対策についてのメールや研修はズームで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等委員会を3ヶ月1回開催し、結果について、スタッフに周知徹底定期的に勉強会を行い身体拘束しないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に、マニュアルを基に事例を用いて勉強会を開催している。虐待防止についてのマニュアルもあり、全体会議で職員に周知徹底を図っている。スピーチロックについても気づいたらその場で注意・指導し身体拘束をしないケアに努めている。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな場合は散歩支援をしている。許可を得て床センサー使用の場合もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会、資料等により知識を得ながら気になること等あれば、スタッフ間で話し合い検討。虐待等が見過ごされることがないように確認、注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在対象者はいない 資料等で確認し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退居時に契約書に伴い理解が得られるような例、補足を付加えながら説明し理解・納得をしてもらえるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族から希望等申し送りノート、会議、行事カンファレンス等を通じて常に検討し運営に反映できるように努めている。	利用者とは日々関わりの中で思いを聞いている。家族からは窓越し面会時にホームの状況を伝え、意見や希望を聞く機会を設けている。毎月のホーム便りで写真と身体・感染状況などの伝達事項を送付している。電話や書面で報告し意見や希望を聞き、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回の全体会議に、理事長、副院長、事務次長看護師長同席にて意見、提案等を挙げ議論及び年2回個人面談し運営に反映できるように努めている。	毎月の全体会議は、ユニット合同で実施している。その後各ユニットに分かれて時間を決めて職員会議をしている。年2回個別面談をしている。相談はいつでも受け入れている。業務内容やシフト体制等の改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	適材適所を考え、個人の評価、意見を聞きながら、職場環境整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修の日程を事前掲示通達、掲示し出席促し法人内でも勉強会も行い質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修会、グループホーム協議会、運営推進会議等を通して交流、情報交換し質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活リズムを確認し会話の機会を多く持ちできるだけ要望等に添えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から要望等を聞き取り、質問等で情報収集し確認を行いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が優先的に今どのような支援が必要か話し合い希望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、できない事をスタッフ間で共有。掃除、食事（食材下ごしらえ、洗物等）暮らしを共にする関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月便りで、受診内容及びケアプラン経過状態等再書面報告。面会時には相談等し、特変時は、その都度電話連絡説明、報告、情報共有し関係を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス蔓延状況に応じて、外出泊、個室での面会は検討。窓越し等の面会は常時可能でお願いをしている。	家族や知人・友人の窓越しの面会を実施して、馴染みの関係が途切れないようにしている。電話の取次ぎもしている。地域からの訪問理美容師の受け入れをしている。希望者には家族同行で墓参りを実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通する話題の会話、レクリエーション等、コミュニケーション等で関わりが持てるような、環境作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院先等へ電話連絡等を通じて情報提供、相談等支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、本人、家族から希望、要望等を確認 困難時は、随時もしくは定期的にカンファレンス、できるだけ本人の意向に沿えられように努めている。	日々の関わりの中で、特に1：1での入浴・訪室時・夜勤時に話されることが多い。困難な場合は状況を見ながら話しかけ、表情や動作・声のトーン・発語を収集し、職員で話し合い、本人の意向に沿った介護ケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、前生活のサマリー等でスタッフ情報共有し本人、家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、基本午前と午後のバイタルチェックや声かけ表情確認等で現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活ケアより課題を見出し本人、家族希望を踏まえて意見を確認。随時もしくは定期的に、カンファレンスを行い計画作成に努めている。	本人や家族の希望を聞き職員の意見・主治医の意見を参考に、担当者会議で介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、見直しを6ヶ月で行い、状態変化時はその都度見直し現状に即した計画にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別健康状態、状態変化時は看護記録で情報共有し介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、判断し可能な限りの対応ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪は地域出張利用して支援に努めているがコロナ禍で思うように地域資源との協働できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医で支援している。	利用者や家族の希望を聞き、かかりつけ医は母体医療法人の医師である。月2回の訪問診療がある。24時間医療連携体制が整っている。歯科の訪問診療もある。眼科・皮膚科は職員が同行し受診結果は家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院より医療連携体制にて正看護師訪問し健康管理。看護記録を中心に情報交換、共有、相談の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書作成 また電話連絡、面会時、退院後等、情報交換を行い、病院関係者等との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階で本人と家族の意向を話し合い、できるだけ希望に沿えるよう主治医と相談、検討。説明し理解、納得してもらえような支援に取り組んでいる。	入居契約時に看取りに関する指針について管理者が説明し同意書を貰っている。重度化した場合は主治医から家族に説明を行い、同意書を再度貰っている。状態変化時も意思確認している。看取り実績もあり、家族の宿泊の部屋は常時準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等にて常時、シュミレーション、検討、勉強会等で確認。状況に応じて母体病院に指示指導で実践できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛避難訓練を特に夜間想定で定期的に繰り返し確認 地域自治会長電話連絡で協力体制が途切れないように努めている。	災害マニュアルがあり、消防署指導の下で年1回、夜間想定で避難誘導訓練・消火訓練・総合訓練を実施している。自主で年2回の訓練も行っている。自治会長も連絡網に入り、訓練時には地域の住民へ連絡ができています。備蓄は1週間分の水・米・麺乾・麺・パン等があり、クーラーボックスやカセットコンロ・懐中電灯・酸素ボンベ・24時間バッテリーも備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重した接遇対応に努めている。	マニュアルに基づき勉強会を実施している。馴れ合いの言葉には注意し、人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。入室時はノックし入浴やトイレ誘導時はさりげなく行い、トイレのドアは観察できる程度にする、特に失禁時は、羞恥心に配慮し誘導している。それぞれの特性を把握し自己決定できる支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り希望に添えるように、日常の会話の中で希望を聞きながら自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体状況、優先順位確認し、できるだけ本人希望に沿えるよう支援に努めているが、業務が優先になる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感を感じられるように一緒に服選び、衣替え支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好、状態を把握、嫌いな物は代替提供、刻み等形態工夫。食材下ごしらえ、後片付け等できることはスタッフと一緒に協力し作業できるように努めている。	入居時に嗜好調査を実施し母体医療機関の管理栄養士が献立作成している。嚥下状況に応じてきざみ・小刻み・一口大など、食事形態を考えて提供している。代替品もある。季節行事のお祝い食、誕生会はケーキでお祝いしている。天気の良い日は広いウッドデッキで一定距離を保ち、お茶会をしたり、食べるのが楽しみとなるよう工夫している。個々人に応じて台拭きやお盆拭き・下膳等、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士カロリー計算献立。個人食事摂取量チェック表活用把握し定期的に管理栄養士訪問指導のもとケアに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのできる方は、声かけ確認。できない方は毎食後介助。 夕食後は入れ歯洗浄剤にて清潔保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人々の残存機能確認、把握排泄チェック表活用し定期的声かけ、介助。できるだけトイレでの排泄リズムの支援に努めている。	一人ひとりの身体能力を確認し、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援をしている。状況に応じて夜間ポータブルトイレでの排泄もある。車椅子移動の利用者が立位可能となりトイレでの排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表活用し水分補給、腹部マッサージ等体操、レクリエーション等運動対応。状態に応じて主治医相談し処方もしくは調整対応で予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間変更等の希望がある場合はできるだけ希望に沿えるように、また、状態に応じて清拭等の支援にも努めている。	基本的に週3回で午前または午後から1:1又は1:2介助での入浴支援をしている。希望によりシャワー浴や同性介助でも対応している。浴槽は公衆衛生面からその都度清掃している。全員入浴拒否もなく楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間等は基本決まっているが、不眠時等の訴え時は会話、テレビ鑑賞等、希望に沿えられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書個人々ファイル添付し、いつでも確認できるだけ把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事に合わせた食事献立の支援には努めているが、コロナ禍で制限多く思うようにできていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出等難しく感染症の状況、気候応じて可能時は短時間ではあるがウッドデッキでお茶、体操等余暇活動の支援に努めている。	コロナ感染拡大前は初詣や花見ドライブなど外出支援ができていたが、コロナ禍で外出が難しく、利用者が少しでも楽しめるよう、広いウッドデッキでお茶会をしたり、体を動かすレクリエーションを工夫し支援している。今年度の初詣は神社や鳥居を職員全員で手作りし参拝したり、家族の協力で受診の帰宅途中等に墓参りをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が金銭管理困難。本人、家族の納得、了解得て預かり金として事務所金庫管理。病院受診等の外出等に希望時、買物支払の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の代筆（読）、電話使用は基本自由で希望時に発信、支援支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには室温時計で空気清浄機、加湿器調整し気持ちよく過ごせる様整備利用者作品、季節の花々を飾り居心地よく過ごせるような工夫に努めている。	フロアは空気清浄機と加湿器があり、1時間毎の換気とカーテンで採光を調整し、室温や湿度に配慮し過ごしやすい環境に整備している。昼間に雛人形を飾ったり、壁には利用者の書き初めや桜の壁画など掲示している。ウッドデッキでお茶や外気浴を楽しんでいる。ソファを景色が眺められる位置に配置して、季節を感じて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	坪庭前に対面ソファを配置。利用者同士（家族）が談話等、ゆっくり過ごしてもらえるよう支援		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品、家具など使い慣れた品物を持ち込んでもらい居心地が良くなるような工夫に努めている。	居室はベッド・押入れ・洗面台・エアコンが設置されている。使い慣れた寝具類やダンス・テレビ・机・椅子等を持ち込み、家族写真や敬老の日の写真を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ危険要因にならないよう環境整備工夫。定期的にスタッフ、家族と相談検討しながら環境作りに努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない